

令和6年度 第1回 宇治市乳幼児教育・保育推進協議会

発達・子育て支援専門部会

日時：令和6年7月1日（月）

午後2時30分から

場所：宇治市役所

3階 301会議室

<次第>

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 専門部会について
- 4 自己紹介
- 5 検討（現状の把握、課題の抽出）
 - （1）専門職による園訪問支援体制について
 - （2）移行支援シートの統一化について
- 6 その他連絡事項
- 7 閉会

<資料>

ページ

① 専門部会 部会員名簿	… 1
② 専門部会についての関係資料	… 3
③ （仮称）乳幼児教育・保育支援センターの位置付けについて	… 1 2
④ 専門職による園訪問支援体制についての関係資料	… 1 3
⑤ 移行支援シートの統一化についての関係資料	… 2 1

令和6年度 宇治市乳幼児教育・保育推進協議会
保幼小連携専門部会 部会員名簿

区分			所属等	氏名	備考
協議会 委員	学識経験者		京都教育大学教育学部 准教授	佐川 早季子	協議会 会長
	私立幼稚園		こざくら幼稚園 園長	松井 明恵	部会長
	公立保育所		北木幡保育所 所長	坂本 知枝美	
	小学校		南部小学校 校長	杉本 俊恵	【新任】
幼稚園・ 保育施設 の従事者	民間 保育施設	正	ひいらぎこども園 園長	中田 純子	
		正	明星っ子こども園 園長	清水 芳美	
		副	みんなのき黄檗こども園 園長	田中 みゆき	【新任】
	私立 幼稚園	正	大谷大学附属大谷幼稚園 園長	緒方 知子	【新任】
		正	宇治幼稚園 副園長	井上 縁	
	公立 保育所	正	小倉双葉園保育所 所長補佐	勝浦 慧	【新任】
	公立 幼稚園	正	東宇治幼稚園 教務	宮本 弘子	
小学校の 関係者	小学校	正	木幡小学校 教諭	中尾 佳那	【新任】
療育施設 の従事者	療育施設	正	府こども発達支援センター 療育課 主任保育士	中西 智佳子	
		副	府こども発達支援センター 療育課 主任保育士	井上 彩	【新任】

(合計14名)

令和6年度 宇治市乳幼児教育・保育推進協議会
 発達・子育て支援専門部会 部会員名簿

区分			所属等	氏名	備考
協議会 委員	学識経験者		京都教育大学教育学部 准教授	佐川 早季子	協議会 会長
	民間保育施設		宇治福祉園 理事長	杉本 一久	部会長
	公立幼稚園		神明幼稚園 園長	岩崎 温美	
	療育施設		府こども発達支援センター 療育課長	中西 みき	
幼稚園・ 保育施設 の従事者	民間 保育施設	正	こひつじこども園 園長	石川 敦子	
		正	槇島ひいらぎこども園 園長	宇野 智子	【新任】
		副	なかよし保育園 園長	山田 奈穂	
	私立 幼稚園	正	西小倉幼稚園 副園長	藤本 薫	
		正	みのり幼稚園 主任	斉藤 あゆみ	【新任】
	公立 保育所	正	宇治保育所 所長補佐	西口 真弓	【新任】
	公立 幼稚園	正	東宇治幼稚園 主任	伊藤 友香	【新任】
小学校の 関係者	小学校	正	御蔵山小学校 教諭	奥元 香奈	【新任】
療育施設 の従事者	療育施設	正	子ども発達さぽーとセンターあゆみ園 園長	荒田 幸子	
		副	子ども発達さぽーとセンターあゆみ園 主任	野村 公子	【新任】

(合計14名)

専門部会について

1 専門部会の設置について

資料1及び資料2 参照

2 部会員の任期について

1年（当該年度末まで）とします。

3 「正」「副」部会員間の情報共有について

部会員名簿に「副」を登録している施設区分の方においては、専門部会の検討内容を「正」「副」の方の間で情報共有、引継ぎ等をしていただきますようお願いいたします。

4 専門部会の運営について

(1) 次の理由により非公開とします。（資料2 参照）

ア 事例研究などで、特定の個人を匿名扱いにしたとしてもなお、発言者により個人が特定されるおそれがあるため

イ 部会員の方に積極にご意見や提案をいただくという専門部会の趣旨を踏まえ、自由かつ率直な意見交換を確保するため

(2) 検討した事項については、取りまとめの上、協議会において報告することとなるため、最終的には公開となります。

(3) 開催の様子を写真撮影し、ホームページ等で掲載することがあります。

(4) 会議録を作成するため会議内容を録音するとともに、会議録は協議会、専門部会及び事務局で共有します。

乳幼児期の教育・保育の今後のあり方について

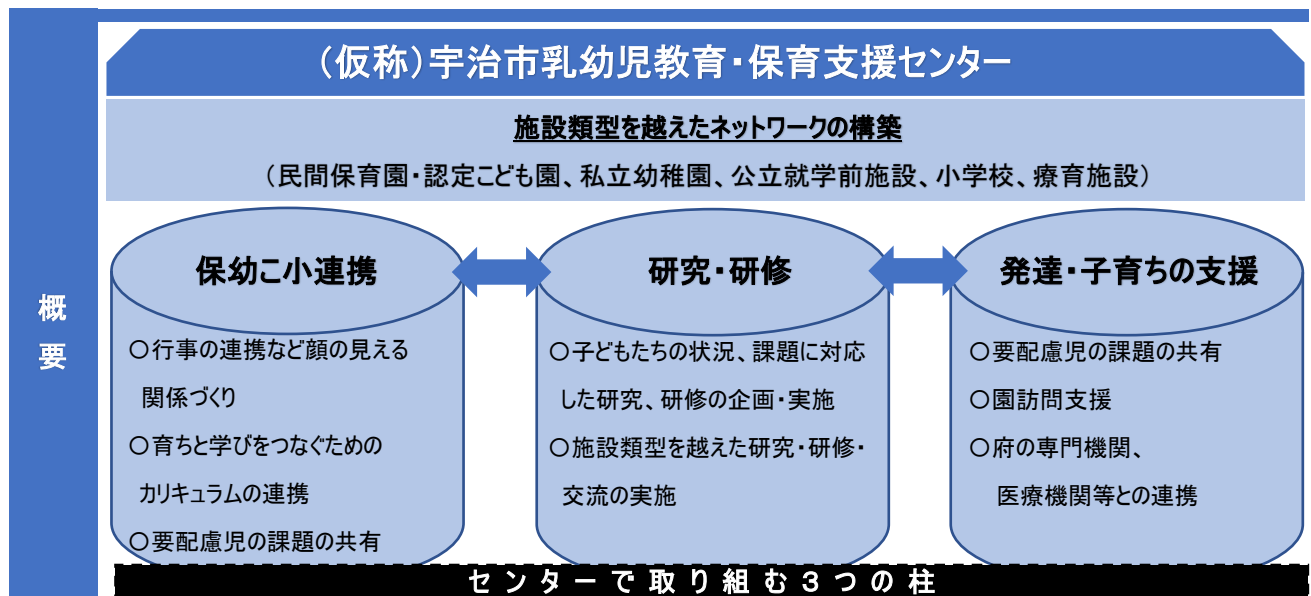
＜これまでの経過＞

令和4年4～8月	乳幼児期の教育・保育のあり方検討委員会(全5回)
8月	乳幼児期の教育・保育の今後のあり方に関する意見書
9月	公立幼稚園の今後のあり方について(宇治市教育委員会) 乳幼児期の教育・保育の今後のあり方について(宇治市)
令和5年4月～	乳幼児教育・保育推進協議会を設置・開催
6月～	保幼小連携専門部会、発達・子育て支援専門部会を設置・開催
令和6年1月	合同部会を設置・開催

＜今後の予定＞

1. (仮称)宇治市乳幼児教育・保育支援センターの設置
(現在の東宇治幼稚園敷地内)

施設類型を越えて全市的に連携・協働し、各施設での取組を共有することにより、これまで以上に、保幼小連携の取組推進や人材育成など、教育・保育の質の向上を図ることが可能となると考え、その仕組みづくりとして(仮称)乳幼児教育・保育支援センターを設置する。



○スケジュール

R5	R6	R7
支援センター準備室開設 推進協議会の設置・検討 専門部会での検討 合同研修会の実施 など	ネットワーク構築の 仕組みづくり	センター開設(※)

※現在の東宇治幼稚園敷地内

○令和6年度 乳幼児教育・保育支援センター準備室の構成員

No.	職・氏名	兼務・併任	主な役割
1	室長 雲丹亀 正記 【事務】	福祉こども部副部長 教育部学校改革推進課担当課長	室の統括
2	副室長 川崎 吉隆 【事務】	教育部副部長	統括補佐
3	副室長 武田 義博 【指導主事】	教育部教育支援センター長	統括補佐
4	主幹 齊田 雄太 【事務】	教育部学校改革推進課主幹	①推進協議会の運営 ②保育施設との連絡調整
5	主幹 大槻 翼 【事務】	教育部学校改革推進課担当課長 教育部学校教育課主幹	①保幼小連携に関すること ②私立幼稚園・小学校との連絡調整
6	主幹 垣見 千里 【幼稚園教諭】	教育部学校教育課主幹 教育部学校改革推進課主幹	①研修の計画・実施に関すること ②公立幼稚園との連絡調整
7	主幹 畑下 訓子 【保健師】	福祉こども部保健推進課副課長 教育部学校改革推進課主幹	①発達・子育て支援に関すること ②療育施設との連絡調整
8	会計年度任用職員 【事務】		①推進協議会の運営補助 ②その他各業務の補助

2. 就学前施設の取組

全ての就学前施設が施設類型を越えて、センターと連携しながら、子どもたちの状況や課題を共有し、連携・協働して研究・研修を行うことで、教育・保育の質の向上及び人材育成を図る。

これに加えて、私立、民間の就学前施設においては、それぞれの施設で特色ある独自の教育・保育を実践することで、更なる教育・保育の質の向上を図り、公立就学前施設では、特別な配慮や支援が必要な子どもへのセーフティネットを担う仕組みづくりに取り組む。

また、公立幼稚園では、市全体の教育・保育の見込量、需給調整の状況等を踏まえた適正規模を維持するため、現行の3園体制を見直し、センターと併設・連携する幼稚園として開設し、保幼小連携、発達・子育て支援について、研究や研修を行うとともに、全ての子どもへの切れ目ない支援体制の充実に努める。

○公立幼稚園の統合に向けたスケジュール

R5	R6	R7
神明・木幡幼稚園 R6 4歳児の募集停止	3園統合、新たに1園	東宇治幼稚園の敷地内に 新たな幼稚園を開設

宇治市乳幼児教育・保育推進協議会について

近年の少子化や核家族化の進行、子育て家庭の孤立化などによる児童虐待の増加、保護者の就労形態の多様化など、子どもを取り巻く環境が大きく変化している中で、特別な配慮や支援を必要とする子どもをはじめ、様々な状況にあるすべての子どもたちの育ちと学びを保障していくことは大変重要です。

現在、宇治市では民間保育園・認定こども園、私立幼稚園、公立就学前施設が、それぞれ特色を活かした教育・保育を実践しているものの、各施設が取組が市全体での共有には至らず、保幼小連携や人材育成についても、各施設単位の取組となっている現状があります。

そこで、施設類型を越えて全市的に連携・協働し、各施設での取組を共有することにより、これまで以上に、保幼小連携の取組推進や人材育成など、教育・保育の質の向上を図ることが可能となると考え、その仕組みづくりとして（仮称）乳幼児教育・保育支援センターを設置することといたしました。

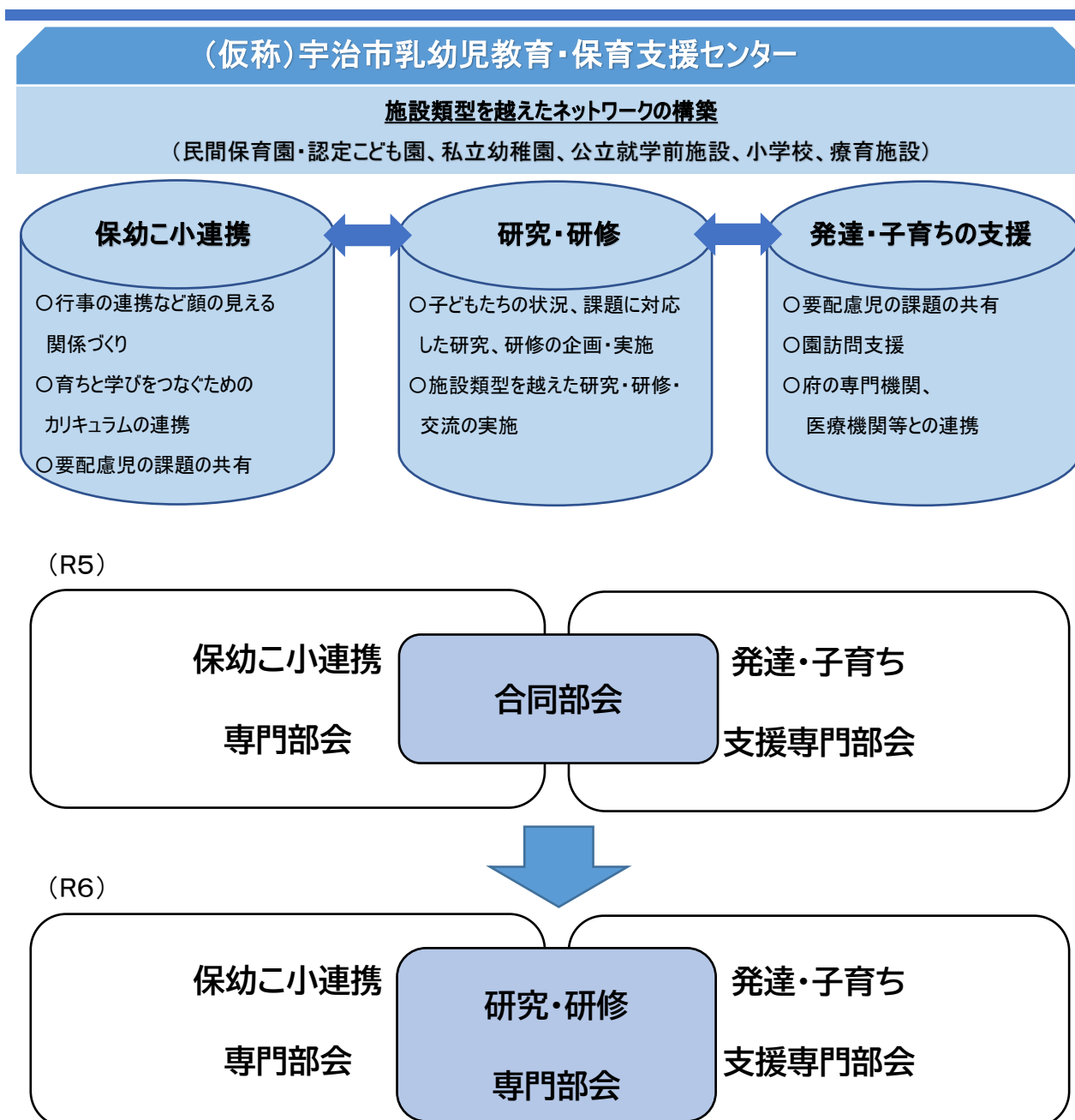
今後、センターを中心として、「研究・研修」「保幼小連携」「発達・子育ての支援」の3つの機能を通して、施設類型を越えたネットワークを構築し、宇治市のすべての子どもの育ちを応援していくことを想定しており、ネットワークを構築していく上で、施設類型を越えた共通理念となる「乳幼児期の教育・保育の基本理念」及び3つの機能の具体化に向けた方策等を協議会において、ご検討を頂きたいと考えています。

○協議会の担当事項

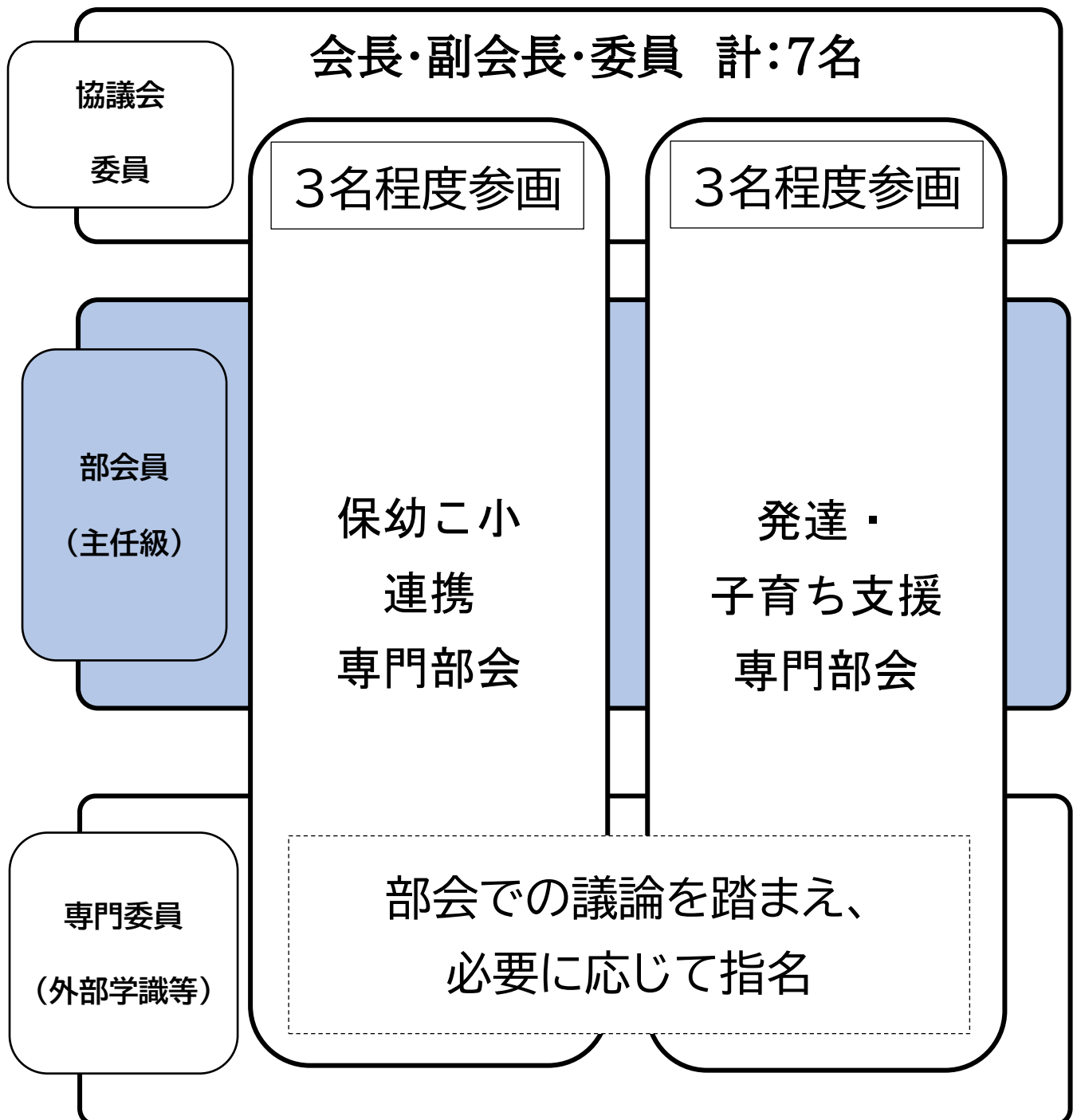
- (1) 乳幼児期の教育・保育の基本理念に関すること。 ⇒ 協議会を中心に検討
 - (2) 教育・保育の質の向上及び保育士等の人材育成に関すること。
 - (3) 保幼小連携の取組の推進に関すること。
 - (4) 特別な配慮や支援を要する子どもへの切れ目のない支援につながる体制の構築に関すること。
 - (5) その他乳幼児教育・保育の推進に関し必要があると認められる事項
- } 専門部会を中心に検討

○センター機能の具体化に向けた検討体制

「保幼小連携」「研究・研修」「発達・子育ての支援」の推進にあたり、現状把握、課題抽出、対応策の検討、研究・研修の企画実施等について、乳幼児教育・保育の実務をよく知る職員の意見を反映できる仕組みとするため、専門部会（ワーキングチーム）を設置して検討を進める。



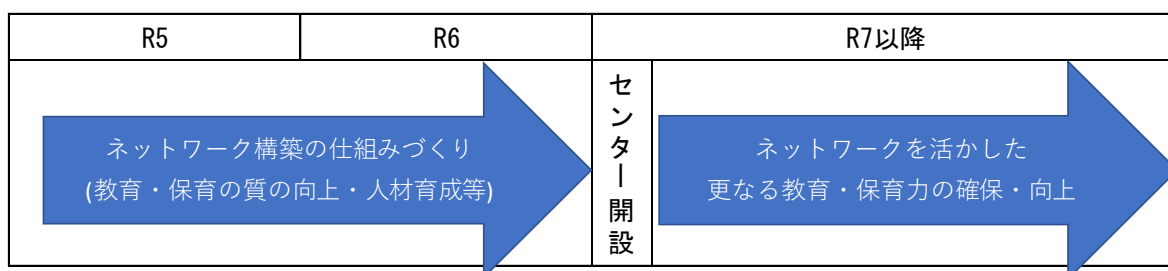
<検討体制>



○令和6年度のスケジュール

時期	区分等	想定している検討事項
4月	協議会①	昨年度の振り返り、今後の予定 基本理念の検討③ 専門部会への検討依頼事項 など
5月	(部会員推薦依頼)	
6月	専門部会①	協議会からの検討事項に対する 現状の課題の抽出
7月	専門部会②	課題に対する対応策の検討①
8月	(検討事項まとめ)	
9月	協議会②	基本理念の検討④→決定 専門部会からの報告事項に対する検討①
10月	専門部会③	課題に対する対応策の検討② 次年度に向けた対応策の提案
11月	(検討事項まとめ)	
12月	協議会③	専門部会からの報告事項に対する検討② 次年度に向けた対応策の具体化
1月	検討状況を踏まえて、開催回数・時期は調整	
2月		
3月		

(今後のイメージ)



○宇治市乳幼児教育・保育推進協議会設置要項（抄）

（担任事項）

第2条 協議会は、次の各号に掲げる事項について協議する。

- (1) 乳幼児期の教育・保育の基本理念に関すること。
- (2) 教育・保育の質の向上及び保育士等の人材育成に関すること。
- (3) 保幼小連携の取組の推進に関すること。
- (4) 特別な配慮や支援を要する子どもへの切れ目のない支援につながる体制の構築に関すること。
- (5) その他乳幼児教育・保育の推進に関し必要があると認められる事項

（専門部会）

第7条 会長は、必要があると認めるときは、専門部会（以下「部会」という。）を置くことができる。

2 会長は、必要があると認めるときは、部会に専門委員を置くことができる。

○宇治市審議会等の会議の公開に関する指針（抜粋）

第3 審議会等の公開基準

審議会等は法令、条例等の規定により会議が非公開とされている場合を除き、公開するものとする。ただし、次のいずれかに該当する場合は、会議の全部又は一部を公開しないことができる。

- (1) 宇治市情報公開条例第6条各号の規定に該当する情報に関し、審議等をする場合
- (2) 会議を公開することにより、公正、円滑な審議等が著しく阻害され、会議の目的が達成されないと認められる場合

○宇治市情報公開条例（抜粋）

・第6条第2号

「特定の個人を識別することはできないが、公にすることにより、なお個人の権利利益を害するおそれがあるもの」

・第6条第4号

「本市等の内部又はその相互間における審議、検討又は協議に関する情報であって、公にすることにより、公正な意思形成に著しい支障が生ずるおそれのあるもの」

2. 発達・子育て支援専門部会

(検討依頼内容)(案)

- ① 専門職による園訪問支援体制について
- ② 移行支援シートの統一化について

(参考①②共通)

次年度に向けた対応策の提案

- (1) 支援体制の整備等について
 - ・保護者が自発的に発達サポート事業の利用申込みをするケースは少ない
 - ・発達サポート事業の対象範囲を絞らず、その時々の子どもの困り感を支援できるといい
 - ・障害児保育指導員による巡回訪問は幼稚園が利用できないため、公平性の観点からも施設類型を越えて利用できるような事業の見直しの必要性
 - ➡全ての子どもがより豊かに園生活が送れるよう、センターが主体となり、各施設を訪問し、園の先生方を支援できる手法を検討
- (2) 「移行支援シート」のあり方について
 - ・園と保護者が一緒に作成するので、その過程で子どもの情報を共有できるとともに、保護者も子どもへの関わり方が変わる
 - ・小学校も引き継いでいくという意識を持てるので、移行支援シートは必要
 - ・様式の統一に伴い、ポイントを絞って作成することで情報が整理される
 - ➡引き続き統一様式をベースに作成する中で課題が生じた場合に、その都度改善に向けた検討を実施

(令和5年度第3回推進協資料 発達・子育て支援専門部会報告書より一部抜粋)

(検討体制の強化について)

「(移行支援シートの話題で)小児科医等の専門職等の力を借りながら取り組みたい」(R5第1回総合教育会議)

事務局案：専門委員として医師を追加

（仮称）乳幼児教育・保育支援センターの位置付けについて

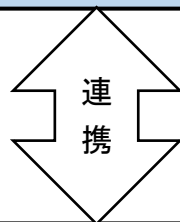
<直接（伴走）支援組織>

こども家庭センター（※）

- こども福祉課
- 保育支援課
- 保健推進課

（※）こども家庭センター

全ての妊産婦、子育て世帯、子どもへ一体的に相談支援を行う機能を有する機関



<間接支援組織>

（仮称）乳幼児教育・保育支援センター

1. 設置目的

乳幼児教育・保育の質の向上（保育士等の人材育成）

2. 主な実施施策（3つの柱）

【保幼小連携】	【研究・研修】	【発達・子育て支援】
○（仮称）架け橋ブロックによる連携・交流事業の本格実施 ○保育要録・指導要録の有効活用に向けた取組の実施	○施設類型を越えて学び合う研修の実施 ○（ワーキングチーム等による）研究事業の実施	○専門職による園訪問支援の実施 ○移行支援シートの有効活用に向けた取組の実施

3. センターの役割

- ①子どもたちの育ちや課題に対応した具体的な研究・研修の企画・実施
- ②（仮称）架け橋ブロックでの取組を推進するためのコーディネート
- ③専門職による園訪問支援を円滑に進めるためのコーディネート
- ④センターでの取組内容についての情報発信

園訪問事業（保育支援課事業との比較）

実施主体	宇治市 保健推進課	宇治市 保育支援課
事業名称等	園児の発達サポート事業	(障害児保育指導員取扱規程に基づく) 巡回訪問
事業趣旨	幼児期後期に明らかになる発達課題を発見 保護者が相談できる窓口を周知 保護者・園・行政が連携し、就学以降の支援につなげる	障害児保育に係る適切な支援を行うため、 園への指導及び助言（加配配置の要否、 保育に関するアドバイスなど）を行う
対象	市内在住の4歳児クラスの子ども 療育、発達相談利用者 → × 他市在住 → ×	加配に関わる児童、園で気になる児童 (幼稚園を除く) 療育施設利用者 → ○ 他市在住（1号認定のみ） → ○
訪問者	発達相談員 (必要に応じて) 保健師、 障害児保育指導員、幼稚園教諭など	障害児保育指導員
保護者の 申し込み ・ 同意	必要 (申込書 兼 個人情報に関する同意書)	原則不要
	園から保護者へ説明 申込みと個人情報提供の同意が必要	園からの訪問要請による
事業 実施後	保健推進課 → 保護者	保育支援課 → 所属園
事後 支援	再度の園訪問・継続的な発達相談・フォ ロー教室の案内・他機関の紹介・教育相談 の紹介	

園訪問支援事業として求めるレベル

支援対象	支援の例
①施設運営	施設レイアウトの相談など
②保育者	指導方法の良い点、改善可能な点をお伝え
③子ども・保護者	園児の発達サポート事業 →必要な支援のあり方

園訪問事業の例（他市との比較）

実施主体	宇治市 保健推進課	船橋市 こども発達相談センター	渋谷区 子ども発達支援C
事業名称	園児の発達サポート事業	巡回相談事業	未就学児通所施設 巡回訪問相談支援事業
事業趣旨	幼児期後期に明らかになる発達課題を発見 保護者が相談できる窓口を周知 保護者・園・行政が連携し、就学以降の支 援につなげる	発達や行動の気になるお子さんがよりス ムーズに園生活を送れるよう、対応の工夫 について先生方と一緒に検討	保育の中で関わり方に悩む子の対応の仕方 について専門職が助言 子どもがより豊かに集団生活が送れるよ う、対応の工夫を一緒に検討
対象	市内在住の4歳児クラスの子ども 〔療育、発達相談利用者 → × 他市在住 → ×〕	在園児で発達や行動の気になる子ども 〔 <u>専門機関利用、他市 → ○</u> 〕	人との関わり方、注意・集中、情緒・感情 などで、保育の中で関わり方に悩む子ども 〔 <u>専門機関利用 → × 他市 → ○</u> 〕
訪問者	発達相談員 〔必要に応じて〕保健師、 障害児保育指導員、幼稚園教諭など〕	心理発達相談員、言語聴覚士 理学療法士、作業療法士	臨床心理士（公認心理師） 必要に応じて 言語聴覚士、理学療法士、作業療法士
保護者の 申し込み 同意	必要 （申込書 兼 個人情報に関する同意書）	必要 （巡回相談に関する承諾書）	不要 〔入園時同意書、年度当初事業説明〕
	園から保護者へ説明 申込みと個人情報提供の同意が必要	園から保護者へ説明 保護者の承諾書が必要	入園時、全ての保護者に施設は当該事業を 利用する旨を説明し、同意を得ておく（同 意書は卒園まで保管） 年度当初、下記3点を保護者へ周知 ①事業を利用する旨、②子ども情報の センターと共有、③巡回の日時
事業 実施後	保健推進課 → 保護者	センター → 所属園 → 保護者	センター → 所属園 → 保護者
事後 支援	再度の園訪問・継続的な発達相談・フオ ロ―教室の案内・他機関の紹介・教育相談 の紹介		

令和５年度 第３回 発達・子育て支援専門部会 確認事項
(渋谷区子ども発達相談センターへの確認)

☆ 職員体制について

心理職（臨床心理士・公認心理士）…６人（会計年度任用職員）
理学療法士、作業療法士、言語聴覚士…スポット勤務

☆ 就学前施設において入園時に個人情報についての同意書を取っているが、
後で「提出をした覚えはない」等の理由により保護者とトラブルになったこ
とはないか。

毎年度当初に保護者に対し巡回訪問相談について説明をする、園だより
に掲載する等の周知をしていることもあり、これまでトラブルになったこ
とはない。

☆ 年間の訪問件数について

９０施設 ７５８件（令和４年度）

☆ 年度内に３回巡回訪問相談をしているが、日程は年度当初に決めているのか。

心理職６人で各園の担当を決めているので、担当園の予定に合わせて年度
当初に日程調整している。都合が悪くなった場合は、再調整を図る。

☆ 巡回訪問相談の結果、発達相談や療育等が必要となった場合、園を通じ保
護者に伝えていただいているのか。

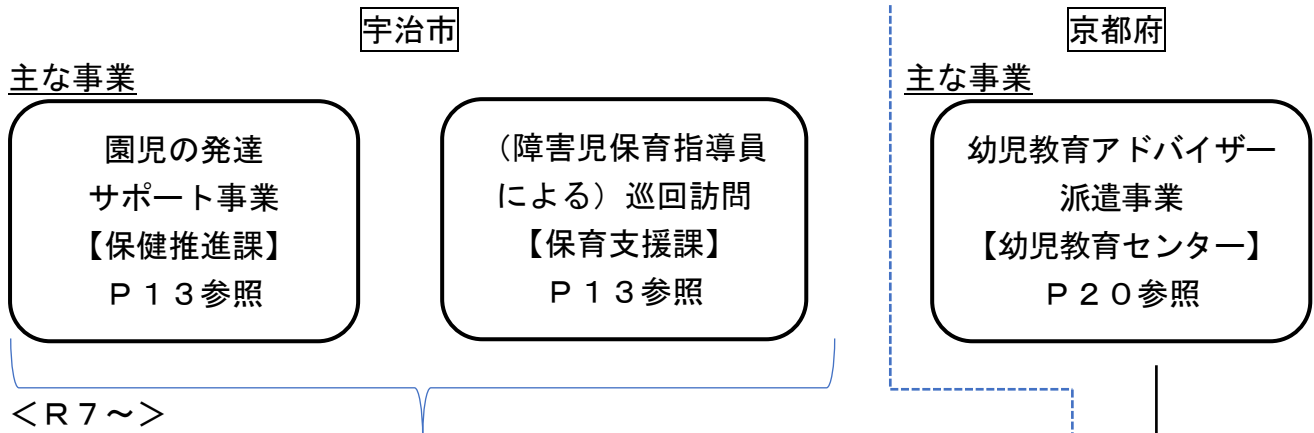
巡回訪問相談では、発達相談や療育等の判断はしていない。

センターでの園訪問支援事業について（R7～）

実施主体	（仮称）宇治市乳幼児教育・保育支援センター		
事業名称等	園訪問支援事業		
事業趣旨	全ての子どもがより豊かに園生活が送れるよう各施設を訪問し、園の先生を支援		
対象	市内の全ての就学前施設		
相談内容	専門部会での意見を 踏まえ決定		
訪問者			
相談方法			
事業実施後			
事後支援			

センターでの専門職による園訪問支援体制についての検討

<現行>



<R7~>

現行の機能は維持した上で、各事業と重ならない
(or 各事業の見直しによる) センターでの
専門職による園訪問支援体制

検討事項

1 相談方法の観点

- ① 園からの申請（依頼）を受けて訪問
- ② （園からの申請不要）定期巡回訪問
- ③ ①・②のミックス
- ④ その他
（園がセンターに出向いて相談、個別の先生からの相談など）

2 相談内容の観点

- ① 配慮を要する子どもへの支援
- ② 保護者への対応
- ③ 保幼小連携
- ④ 教育・保育の質の向上
（教育・保育の内容、園内研修、環境構成など）
- ⑤ その他

3 訪問する専門職の職種の観点

- ① 発達相談員
- ② 保健師
- ③ 保育士・幼稚園教諭
- ④ 障害児保育指導員
- ⑤ その他

下記のフォームにご入力をお願いします。

以下の内容をご記入いただきましたら、担当よりお電話させていただきます。
なお、ご連絡までお時間がかかることもございます。

Q1. 園名をご記入ください。 必須

0 / 60

Q2. 施設長名をご記入ください。 必須

氏名

氏 必須

0 / 64

名 必須

0 / 64

氏フリガナ 必須

0 / 64

名フリガナ 必須

0 / 64

Q3. 担当名をご記入ください。

氏名

氏 必須

0 / 64

名 必須

0 / 64

氏フリガナ 必須

0 / 64

名フリガナ 必須

0 / 64

Q4. 該当する相談項目にチェックをつけてください。（複数回答可）

必須

☐ 保育内容

☐ 環境構成

☐ 園内研修

☐ 配慮を要する子どもへの支援

☐ 保護者への対応

☐ 計画・記録など

☐ 小学校との連携

☐ その他

Q5. Q4の相談項目について具体的な内容をご記入ください。個人情報
についての記入は控えください。 必須

0 / 60000

Q6. 相談方法について 必須

☐ 自園・所への訪問を希望

☐ センターでの面談を希望

☐ その他

巡回訪問の希望日（第1希望日から第3希望日）をご記入ください

下記のフォームにご入力をお願いします。

Q1. 所属 必須

- ☐ 保育園
☐ 幼稚園
☐ 認定こども園
☐ 地域型保育事業施設
☐ 認可外保育施設
☐ その他

Q2. 施設名 必須

0 / 60000

**Q3. お名前
必須**

0 / 60000

Q4. お名前（よみ） 必須

0 / 60000

Q5. 担当クラス 必須

- ☐ 0 歳児
☐ 1 歳児
☐ 2 歳児
☐ 3 歳児
☐ 4 歳児
☐ 5 歳児
☐ フリー
☐ 養護教諭・看護師
☐ 調理員
☐ その他

Q6. 相談について 必須

- ☐ 保育について
☐ 園運営について
☐ 保護者について
☐ 職員について
☐ その他について

Q7. Q6.の内容についてご記入ください。（記入できる範囲で結構です。） 必須

0 / 60000

京都府幼児教育センターについて(令和6年度)

京都府における幼児教育・保育の質の向上と円滑な幼小接続を図るため、京都府の幼児教育推進の拠点として「京都府幼児教育センター」を令和2年4月に開設。府内のすべての幼児教育施設（公私立の幼稚園、保育所、認定こども園）で質の高い教育・保育の実施ができるよう、教育庁学校教育課、文化・生活部文教課、健康福祉部こども・子育て総合支援室が一体となり、各種事業を実施するとともに公私立幼稚園・保育所・認定こども園を通じた協働ネットワークを構築。事業の実施にあたっては、市町(組合)教育委員会・市町村首席長部局や公私立の幼児教育・保育関係団体等と緊密に連携して推進。



令和6年度の主要な事業

幼児教育施設訪問・助言

幼児教育ジェネラルアドバイザーの派遣

- ◆ 幼児教育ジェネラルアドバイザー（国公立幼稚園の園長・副園長、公立保育所の所長・経理者）が幼児教育施設を訪問し、保育参観等を通して教育・保育内容について助言を行ったり、園内研修での講師や助言を行ったりする。
- ◆ 幼児教育ジェネラルアドバイザーが市町(組合)教育委員会、市町村首席長部局、幼児教育・保育関係団体及び小中学校教育関係団体等が主催する研修会での講師を行う。

充実 多様なニーズに応えるための幼児教育スペシャリストアドバイザーの派遣

- ◆ 幼稚園、保育所、認定こども園及び市町村等のニーズを踏まえ、多様な分野の専門家（臨床心理士、作業療法士、幼児教育の評価、食・健康、ICT、芸術、読書活動、防犯等）を幼児教育スペシャリストアドバイザーとして派遣し、質の高い幼児教育の実現を目指す。

充実 市町村幼児教育アドバイザー設置促進のための研究事業

- ◆ 幼児教育アドバイザーを配置（予定も含む。）している、市町村に研究委託し、アドバイザーの活動を分析し、その結果を府内に波及させることにより、市町村での幼児教育アドバイザーの配置を促進する。

充実 幼児教育アドバイザー等の養成、活用に向けた有識者会議と研修の実施

- ◆ 幼児教育アドバイザーの設置や活用を促進するにあたり、有識者会議を開催し、アドバイザー人材の養成や資質向上等の在り方について、検討する。
- ◆ 府内幼児教育アドバイザー（府・市町村）、幼児教育担当指導主事（府・市町(組合)）、園長等による研修会を実施する。

京都府幼児教育センターHPによる情報発信

- ◆ 京都府幼児教育アドバイザーによる研修動画の公開を始め、各種機関が公開している幼児教育の質の向上につながるコンテンツの紹介
- ◆ 京都府幼児教育センター作成のリーフレット「きょうとの子ども」の活用方法紹介
- ◆ 教育・保育・家庭教育等についての府内外の様々な機関から発信されている情報を体系的に集約し、ポータルサイトとして運用

多様な幼児教育施設・関係機関との連携体制構築

充実 幼児教育と小学校教育の接続期カリキュラムコンサルテーション事業

- ◆ 幼児教育と小学校教育のカリキュラムを円滑に接続するため、保育士・幼稚園教諭等と小学校教職員の研修の在り方や接続期カリキュラムの実践、改善について小学校ブロックにコンサルタントチーム（専門家、幼児教育アドバイザー、指導主事等から編成）を派遣し、ブロックの現状に応じた支援、指導助言を行い、協調しながらカリキュラムの開発、工夫改善を推進する。

市町村の幼児教育センター等幼児教育関連機関等との連絡交流

- ◆ 京都府全体の幼児教育の質の向上を推進するために、府内全市町村の幼児教育センター等幼児教育担当部局とアドバイザー養成・設置、研修の在り方、幼保の連携、幼小接続等をテーマに連絡交流する場を設け、有機的に連携する仕組みを構築する。

幼児教育に関連する人材育成

京都府幼児教育研究協議会（幼児教育の理解・発展推進事業）

- ◆ 府内の国公私立の幼稚園・保育所・認定こども園の関係者を対象とした、講演会や実践発表や研究協議、意見交流を年2回（夏・冬）実施し、質の高い幼児教育の実現を目指す。

長期研修制度を活用した幼小連携人材の育成

- ◆ 小学校教員を京都教育大学に派遣しながら、幼児教育施設や小学校での実践も行い、双方での往還を通じ、幼小接続をコーディネートできる人材を育成する。

移行支援シートの概要について

○移行支援シートとは

就学前施設で行っていた支援を小学校に引き継ぐためのシート

○対象

配慮や支援が必要な子ども

○作成方法

就学前施設の先生が保護者と相談しながら作成

○移行支援シートについての小学校の意見（アンケートより抜粋）

（R4 公立幼・保での様式統一前）

- ・ 移行支援シートと気付かない
- ・ 様式不統一で着目点が不明瞭

（様式統一後）

- ・ （個別の教育支援計画に沿った様式のため）見慣れたシートで分かりやすい
- ・ 個別の教育支援計画が作成しやすくなった
- ・ 以前の様式で分かりやすいところもあり、ミックス版ありがたい

○前回の専門部会での主な意見

（公立幼稚園）

- ・ 園と保護者が一緒に作成するので、その過程で子どもの情報を共有できるとともに、保護者も子どもへの関わり方が変わる
- ・ 様式の統一に伴い、ポイントを絞って作成することで子どもの情報が整理される

（小学校）

- ・ 統一される前は詳しい内容だったため、園での様子がよく分かるものの、項目がたくさんあって見きれなかったが、統一されて見やすくなった
- ・ シートがある方が保護者も安心できるし、小学校も引き継いでいくという意識が持てる

例. 公立幼稚園 (A 4 3枚)

[illegible]

様式：A4 1枚

取組注意				宇治市立 小学校 個別の教育支援計画				年 月 日 作成者（ ）	
ふりがな		性別	学年	担任名	支援（通級指導教室・いさいき支援等）				
氏名			1年						
生年月日	年 月 日生		2年						
生 育 歴（入学までの様子）			3年						
			4年						
			5年						
			6年						
本人の願い（将来の夢）			保護者の願い						
本人の長所、得意なこと			診断等		他機関との連携				
					監修	補正	その他		
小学校における長期目標			有効だと想われる手段及び学校での様子						
この個別の教育支援計画進を了承し、関係機関との相談で使用することに同意します。					年 月 日 保護者署名				

様式：A4 1枚

取組注意						宇治市立 中学校 関防の教育支援計画							年 月 日 作成者（ ）		
ふりがな						性別	学年	担任名	支援(通級指導教室・いきいき支援等)						
氏名							1年								
生年月日			年	月	日生		2年								
							3年								
生年度：入学までの様子						学校での様子									
						保護者の願い									
本人の長所、得意なこと						診断等		他機関との連携							
								医療 福祉 その他							
								有効だとと思われる事立て							
中学校における長期目標															

この関係の教育支援計画を了承し、関係機関との相談で使用することに同意します。

保護者署名 _____

年 月 日

-22-

小学校の意見

- ・ 見慣れたシートで分かりやすい
- ・ 支援計画が作成しやすくなった
- ・ 以前の様式で分かりやすい所もあり、ミックス版がありがたい

様式：不統一 手書き・紙で提出
→ 公立幼・保はA4 1枚化
例. 公立幼稚園・保育園 (A4 1枚)

様式：統一様式 (Excel) (H31年度より)
校務NWで校長宛てファイル送信
様式：A 4 1枚

統一のメリット

- ・受取・作成の視点が統一
- ・データを活用することが可能
- ・支援計画の一貫性確保

移行支援
シート
(施設連携)

※中学校も高校への移行シートを作成

資料5 発達・子育て支援専門部会
(令和5年10月20日) 資料一部抜粋

取組主題		令和 年度 宇治市立 幼稚園移行支援シート		年 月 日 作成者()	
ふりがな	氏名	性別	学年	担任名	支援(指導形態)
			3歳		教育相談等
生年月日	年 月 日生		4歳		
			5歳		
生育歴・入園までの様子			入寺当初予想される姿		
本人の思い(楽しみ、不安に思っていること)			保護者の願い		
本人の長所・得意なこと		診療等		他機関との連携	
				医療 福祉 その他	
幼稚園における長期目標		有効だと思われる手立て及び幼稚園での様子			
この内容を了承し、進学先及び関係機関との相談で使用することに同意します。					
年 月 日 保護者署名					

年 月 日 作成者()						
学校推薦書 宇治市立 小学校 移行支援シート 文庫（通級用教室・さいきょう支援等）						
ふりがな	性別	学年	担任名			
氏名		1年				
生年月日	年 月 日生	2年				
生育歴：入学までの様子		3年				
		4年				
		5年				
		6年				
本人の願い、将来の夢)		保護者の願い				
本人の長所・得意なこと		診断等	他機関との連携			
			医師	福祉士	その他	
			有効だと認められる手立て及び学校での様子			
小中学校における転入目標						
この内容を了承し、進学先及び関係機関との相談で使用することに同意します。						
保護者署名 _____ 年 月 日						

ふりがな	性別	学年	担任名	支援(指導形態)	教育相談等
氏名		3歳			
生年月日	年 月 日生	4歳			B: 16.7%
生育歴・入園までの様子					
入学当初予想される姿					
C: 91.7%					
本人の思い(楽しみ・不安に思っていること)					
保護者の願い					
E: 41.7%					
本人の長所・得意なこと					
他機関との連携					
医療					
止					
その他					
H: 25.0%					
幼稚園における長期目標					
有効だと思われる手立て及び幼稚園での様子					
I: 41.7%					
J: 66.7%					

(幼)移行支援シートの記入の仕方

取扱注意 宇治市立 〇〇 幼稚園 移行支援シート

年 月 日 作成者 ()

ふりがな	性別	学年	担任名	支援(指導形態)	教育相談等
氏名	〇 〇 〇 〇	3歳	〇〇 〇〇	園内で行った指導形態について記入します。	保健推進課の発達相談・通級指導教室の教育相談を行った場合記入します。 (〇月〇日 保健推進課) (〇月〇日 〇〇小学校 通級指導教室)
生年月日	年 月 日生	4歳	△△ △△	例:加配対応(3:1)	
生育歴・入園までの様子		5歳	□□ □□		
入学当初予想される姿					
乳児期の様子や行動の特徴は、本児を理解する上で重要な情報となることがあります。指導や支援が必要だと思われる事柄について、保護者から聞き取り、わかる範囲で記入します。					
保護者の願い					
入学当初(登下校、授業中、休み時間、給食、放課後、その他)に予想される姿を具体的に記入します。					
本人の思い(楽しみ・不安に思っていること)					
適切な指導、支援を考える際、保護者の意向を踏まえることは大切です。保護者が本児の将来(6年後)について、どんな願いをもっているのか十分に聞き取り、記入します。また、現在の本人の思いも聞き取って記入します。					
本人の長所・得意なこと		診断等		他機関との連携	
支援に活かせるという視点で、本人の長所、興味、関心のあることや得意なこと等を記入します。支援内容の検討の際に参考となりそうな事柄を挙げます。		医療機関で診断を受けている場合は、診断名と診断時期及び医療機関名(医師名)を記入します。検査実施日は記入可能ですが、検査結果(数値)は記入しません。		医療	5歳児で継続して連携している、医療機関や福祉機関で受けた療育や支援、相談があれば、記入します。*投薬の有無の記入可能
幼稚園における長期目標		有効だと思われる手立て及び幼稚園での様子			
5歳児での目標を記入します。 ※幼児の実態に合わせて、豊かな生活を送るために必要なこと、困難を改善・克服するために必要なことという視点で検討して設定したもの。 ※主語は幼児本人と考えて記述する。		行ってきた支援内容・方法とその支援に対する幼児の様子について記入します。 ※実施した合理的配慮についても記入します。(Q&A10「学校における合理的配慮の観点」参照)			

この内容を了承し、進学先及び関係機関との相談で使用することに同意します。

年 月 日

保護者署名

記入例

取扱注意 宇治市立 ○○ 幼稚園移行支援シート

令和○年 ○月 ○日 作成者(□□ □□)

ふりがな		性別		学年	担任名	支援(指導形態)	教育相談等
氏名	○ ○ ○ ○	○		3歳	○ ○ ○ ○	加配対応(3:1)	
生年月日	年 月 日生			4歳	△ △ △ △	加配対応(3:1)	
生育歴・入園までの様子			5歳	□ □ □ □	加配対応(3:1)	○月○日 ○○小学校 通級指導教室	
・低出生体重児 2000g ・首のすわり4か月、歩き始め1歳0か月、言葉の言い始め1歳2か月 ・1歳8か月健診で視線の合いにくさから保健推進課の発達相談を継続して受け、療育を勧められた。 ・自分のしたいことができないと、癇癪を起こし、切り替えに時間を要することが多かった。							
本人の思い(楽しみ・不安に思っていること)			保護者の願い				
(楽しみ) ・勉強すること (不安) ・朝早く起きること			・休み時間は、友達と関わることなく一人で過ごすことが多い。 ・状況理解が難しく、自己中心的な関わり方になり、誤解されやすい。 ・授業の準備や片付けを時間内にやり切ることが難しい。				
(楽しみ) ・勉強すること (不安) ・朝早く起きること			・友達と関わることを楽しめるようになってほしい。 ・自分のしたいことよりも今すべきことをできるようにしてほしい。				
本人の長所・得意なこと		診断等	他機関との連携				
・電車が好きで、車掌になりきって駅名を言ったり、様々な電車の名前を知っていたりする。 ・迷路のような線路や電車などの絵を描くことを好み、集中して取り組む。 ・当番活動が好きで、順番が来るのを楽しみにしたり、意欲的に取り組んだりする。		医療 福祉 その他	・○○病院にて定期的に診察・相談を受けている。 (担当医:○○医師 ○歳～) ・○○療育園通園(○歳～卒園まで 週○回)				
幼稚園における長期目標		有効だと思われる手立て及び幼稚園での様子					
・好きな遊びを通して、自ら友達と関わる。 ・決められた時間内に身の回りの始末を終える。		・自分で作った電車を走らせて一人で遊ぶことが多かったため、園庭に電車ごっこの場を設けるなどしてぎっかけ作りをすることで、友達と同じ場で遊ぶ姿が見られた。遊びの中で順番を代われない場面もあったが、教師が友達の思いを知らせることで、時には代われることもあった。 ・自分のしたいことがあると切り替えに時間が掛かって身の回りの始末が出来ず、教師に頼ろうとする姿があった。目標の時間を知らせ、視覚で分かるように示し、時間内に出来た時は好きな電車のシールを貼れるようにしたことと、自ら意欲をもって始末をしようとする姿が見られるようになってきた。					

この内容を了承し、進学先及び関係機関との相談で使用することに同意します。

年 月 日

保護者署名

記入例

取扱い注意 宇治市立 〇〇 小学校 個別の教育支援計画

令和 〇 年 4 月 〇 日 作成者 (〇 〇 〇 〇)

ふりがな	性別	学年	担任名	支援(通級指導教室・いきいき支援等)
氏名		1年	〇〇 〇〇	2学期からいきいき支援(個別指導 週1時間)
生年月日	年 月 日生	2年	△△ △△	いきいき支援(個別指導 週1時間)・通級指導教室保護者相談
生育歴・入学までの様子				
・低出生体重児 ・1歳8か月健診(規線の合いにくさ)から保健推進課の発達相談を継続して受け、療育を勧められる。 ・3歳から△△幼稚園に入園し、並行して療育へ通う。(〇〇療育園 卒園まで) ・幼稚園では、気に入った活動に没頭してしまい、切り替えに時間がかかった。 ・自分のしたいことがやめられず、順番を代われないことがあった。 ※移行支援シート有(〇〇幼稚園、△△療育から)				
本人の願い(将来の夢)			保護者の願い	
・電車の運転手になりたい。 ・話が合う友達と仲良く遊びたい。				
本人の長所・得意なこと		診断等	他機関との連携	
・興味のあることには粘り強く取り組みることができる。 ・電車が好きで、種類や路線を説明できる。 ・知識が豊富で、難しい言葉をよく知っている。		・自閉スペクトラム症、ADHD (令和〇年〇月〇〇病院△△医師)	医療	・〇〇病院にて定期的に診察・相談を受けている。 (担当医:〇〇医師)
			福祉	・投薬有
			その他	・小学校2年生から放課後デイサービスを利用している。 (〇〇〇へ週に2回)
小学校における長期目標		有効だと思われる手立て及び学校での様子		
学習面	・単語や文節のまとまりが分かりやすいように補助線や区切り線を入れて音読をし、読み違いなく文章の内 容理解を進めるように意識する。 ・ノートの罫線や記入枠を大きくして、はみ出さず丁寧に文字が書けるようにする。(合理的配慮)			
生活面	・片付けが苦手、物をよくなくしてしまうことがあるので、片づける場所をイラストやラベルで視覚的に分かり やすくし、整理方法を身に付けられるようにする。			
社会性面	・自分の思いが優先されて友達の思いに気が付かないことがあるので、個別に場面や状況を説明したり、友 達の気持ちを伝えたりすることで、友達と一緒に活動することができる。			

この個別の教育支援計画を了承し、関係機関との相談で使用することに同意します。

年 月 日

保護者署名

記入例

宇治市立 〇〇 中学校個別の教育支援計画

令和 〇年 4月 〇日 作成者 (△△ △△)

取扱注意

ふりがな	性別	学年	担任名	支援(通級指導教室・いきいき支援等)
氏名	〇 〇 〇 〇	1年	〇〇 〇〇	いきいき支援(個別指導 週1時間)
生年月日	年 月 日生	2年	△△ △△	通級指導教室(指導 週1回)
生育歴・入学までの様子		3年		
・検診後毎年保健推進課の発達相談を受け、3歳から△△幼稚園に入園し、並行して療育へ通う。(〇〇療育園 卒園まで) ・小学1年生2学期からいきいき支援の取り出し指導を受け、2年生時に通級指導教室で教育相談を受け、3年生から通級指導を始めた。(〇〇小学校通級教室 週1回) ＊移行支援シート有(〇〇小から)		学校での様子 ・真面目に学習に取り組むことができ、内容も理解することができている。 ・書く量を調整することではみ出さずにノートを書くことができる。 ・持ち物をまとめたり、整理することで、持ち物の管理ができるようになった。		
本人の願い(将来の夢)		保護者の願い		
・自分と趣味の合う友達を作りたい。 ・希望する高校に進学し、将来は大学で勉強したい。		・友だちと仲良くして、興味の範囲を広げていってほしい。 ・高校や大学に進学できるように学力をつけてほしい。		
本人の長所・得意なこと	診断等	他機関との連携		
・興味のあることには粘り強く取り組むことができる。 ・特に地理的な分野についての知識が豊富で、難しい言葉をよく知っている。 ・学習やその他の活動に真面目に取り組むことができる。	・自閉スペクトラム症・ADHD (令和〇年〇月〇〇病院△△医師)	医療 (担当医:〇〇医師) ・投薬有 ・小学校2年生から放課後デイサービスを利用している。 (〇〇〇〇へ週に1回 部活のない日に)		
中学校における長期目標		有効だと思われる手立て		
学習面 ・量の調整を行えば、各教科のノートを書くことができる。 生活面 ・プリントの整理整頓を行い、提出物を期限内に提出することができる。 ・見通しをもって、学習に向かうことができる。 社会性面 ・周囲に対して、人の気持ちを考えた言葉かけや行動ができる。	・一度にたくさんの文字情報が提示されると混乱するので、情報の提示の仕方や情報量の調節を行う。 ・黒板の図表や細部の記入については、タブレットの撮影を認める。(合理的配慮) ・提出物や試験範囲などの指示は視覚化して説明を行い、見通しを持って学習に取り組めるようにする。 ・学期始めや行事等の前には見通しがもてるよう、ねらいや今後の活動予定について整理して伝える。 ・個別の場面では、ソーシャルスキルトレーニングを行い、場面理解のために相手の気持ちを考える機会を設定し、日常生活の中で意識できるようにする。			

この個別の教育支援計画を了承し、関係機関との相談で使用することに同意します。

年 月 日

保護者署名

移行支援シートの統一化に向けた課題の抽出

◎【渡す側】公立幼稚園

令和5年度 専門部会での 主な意見	・園と保護者が一緒に作成するので、その過程で子どもの情報を共有できるとともに、保護者も子どもへの関わり方が変わる ・様式の統一に伴い、ポイントを絞って作成することで子どもの情報が整理される
良いと 感じる事	
課題と 感じる事	



「課題と感じる事」について、他の施設類型の部会員とともに意見交換しながら、改善を図る

◎【受け取る側】小学校

令和5年度 専門部会での 主な意見	・統一される前は詳しい内容だったため、園での様子がよく分かるものの、項目がたくさんあって見きれなかったが、統一されて見やすくなった ・シートがある方が保護者も安心できるし、小学校も引き継いでいくという意識が持てる
良いと 感じる事	
課題と 感じる事	

移行支援シートの統一化に向けたスケジュール

時期	区分等	内容
令和6年 4月16日	第1回 推進協議会	【専門部会への検討依頼】 「移行支援シートの統一化について」
令和6年 7月1日	第1回 専門部会	【現状の課題の抽出】 令和5年度専門部会後に出てきた課題についての報告 ◎渡す側（公立幼稚園） ◎受け取る側（小学校）
7月下旬 ～ 8月上旬	第2回 専門部会	【課題に対する対応策の検討①】 「記録すること」「活用する視点」「活用するタイミング」についての意見交換
9月	第2回 推進協議会	【専門部会からの報告事項に対する検討】
10月	第3回 専門部会	【課題に対する対応策の検討②】 【次年度に向けた対応策の提案】 （協議会・専門部会での意見を踏まえ） 移行支援シート（案）の確定
12月	第3回 推進協議会	【次年度に向けた対応策の具体化】 移行支援シートの確定
令和7年 4月～	センター 開設	<u>令和8年度入学の子どもを対象に全市的に統一様式を使用</u>